

## 個別ゼミ概要(オリエンテーション配付、WEB掲示用)

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」		
ゼミ名	マスコミ		
講師幹事名	杉田 弘毅	大学教員	武村知子
学期	春夏	開講時間	水曜 4～5時限

### 【授業の目的・到達目標】

- ・ ネットニュースや SNS で最新の情報が瞬時に世界中に伝わる現在、社会におけるプリントメディアの意義とは？経験に裏打ちされた卒業生の講義を基に一緒に議論していきましょう。社内訪問や取材現場の見学も行います。抽象的な内容ではなく、具体的な話を中心に4時限目で講義を行い、5時限目はディスカッション形式で進めていきます。積極的な発言を望みます。

### 【上記目的・目標達成方法】

### 【授業の内容と計画】

役職は講義要綱作成時／開催場所は情勢により変更の可能性あり

月日	講師名	卒年	社名・役職	講義内容
4月27日	杉田 弘毅	昭55法	共同通信社 特別編集委員	1. オリエンテーション 2. ジャーナリストはなぜ取材し記事を書くのか 3. 国際報道の醍醐味 4. 世界に日本を発信しよう
5月11日	石橋 大祐	平11社	読売新聞 教育ネットワーク事務局	1. 概論 新聞ができるまで 2. 伝える、伝わるあなたのニュース SNS時代のニュース価値判断とは キャリア形成に活かす情報活用術 3. 子育て記者の一日。「両立しながらキャリアを積むには？」 新聞社以外への就職にも役立つ、仕事と家庭、仕事と余暇の両立について考えます。
5月25日 (オンライン)	川俣 享子	昭63社	毎日新聞社 知的財産ビジネス本部長	テーマ「新聞社におけるコンテンツビジネス」。新聞社はニュース発信だけでなく、いまやトータル・ニュース・コンテンツ企業を目指している。新聞社におけるスポーツや文化事業、知的財産といったコンテンツの重要性と、そのビジネス展開の醍醐味をお教えます。
6月8日	織田 晋太郎	平18社	時事通信社 経済部	一、人類学徒から記者に 一、物語と感情で動く市場—金融取材から 一、技術進歩はユートピア？ディストピア？—シリコンバレー取材から 一、メディアの今後を考える
6月22日	石鍋 仁美	昭62社	日本経済新聞社 編集局 編集委員兼論説委員	1. 経済ニュースの読み解き方 2. ネットニュースとマスメディア 3. 「炎上」現象と報道の関係
7月6日 (学外ゼミを 予定)	米沢	平17社 平19社院	講談社 週刊現代編集部 副編集長	・なぜ編集者は「一流シェフ」であるのか—— 狩猟採集から味付けまで ・記者と編集者はなぜこんなに違うのか—— 週刊誌スクープ記事の舞台裏から、『未来の年表』シリーズが88万部超となった秘話まで ・実践編：話題となる雑誌企画、第1ヒット企画を練ろう—— 雑誌はタイトルが9割。本の表紙は顔面、ストーリーは身体である ・「確信犯」「敷居が高い」「なくずし」の意味は？ ——出版社の良心「校閲」の現場から

## 個別ゼミ概要(オリエンテーション配付、WEB掲示用)

### 【学生へのメッセージ】

ネットだけでなく紙の新聞や雑誌にもよく目を通しておいてほしい。

【参考文献】 4月27日 杉田弘毅 講師 『「ポスト・グローバル時代」の地政学』(杉田弘毅著、新潮選書)

【参考文献】 7月6日 米沢 講師 『未来の年表』シリーズ(講談社現代新書)、あるいは雑誌「週刊現代」を読んでおいてください。

### 【受講生に対するメッセージ、希望】

将来、メディアの世界で働きたいと思っている学生、メディアをよく知り活用したいと思っている学生を歓迎します。

### 【過去の受講生の声】

#### 社会学部4年

「現役新聞記者や編集者の方とのインタラクションを経て、マスメディアという特殊な産業について二点意識するようになりました。第一に公器としてのジャーナリズム。社会問題をフレーミングし世に知らせる記者職の影響力が伝わりました。第二に娯楽としてのジャーナリズム。新鮮だったのは石橋さんの「毎日楽しみにして新聞を読んでいる田舎のおばあちゃん」の話や米沢さんの「面白くてためになる新書」の話です。講師の方々は、プロとして常に情報の正確さや公共性を探究しながらも、読者や視聴者の素朴な視点も持っているのだと感じました。」

#### 社会学部3年

「ジャーナリストとして第一線で活躍してきたOB・OGの方から直接お話を聞き、記者の働き方や使命、やりがい、大変さなどを知ることができるゼミでした。私自身は、将来の選択肢の1つとしてジャーナリストを考えていたため、リアルな働き方を学んだことで、今後の進路選択の一助になったと感じています。非常に充実した有意義な3か月間の講義でした。」